

参加型システムズ・アプローチによる戦略的意思決定実践

履修者： 市村 賢士郎 (教育学研究科M1) 岡 隆之介 (教育学研究科M1) 濱田 鮎美 (経営管理大学院M1)

実施責任者： 榎木 哲夫 (工学研究科機械理工学専攻 教授) 十河 卓司 (デザイン学ユニット 准教授)

実施協力者： 泉井 一浩 (工学研究科機械理工学専攻 准教授) 堀口 由貴男 (工学研究科機械理工学専攻 助教)

I. グループワーク：オフィスでの気づき支援へのISMとAHPの活用実践

1. 問題理解

話題提供： コニカミノルタビジネステクノロジーズ(株) 梶谷 香美さま

- 社内コミュニケーションのハブ人材の不足
- 複数部署間のコミュニケーションを円滑にする仕組みが必要

2. ブレスト&KJ法

- オフィスでの気づきに関する要因のブレスト
- KJ法によるブレスト結果のグループ化
⇒ 60項目超→29項目



図1：KJ法により整理された要因群

3. ISMによる目的-手段関係抽出

ISM: Interpretive Structural Modeling

- KJ法で抽出した29要因の因果関係を一対比較を繰り返して隣接行列に
- 隣接行列から最小辺有向グラフを作成
⇒ 因果関係の骨格構造
- 「情報の共有」と「人間関係」の円滑化に関わる目的-手段関係を可視化

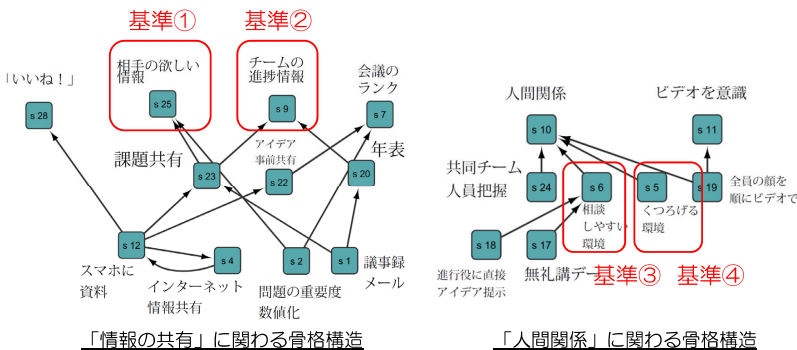


図2：ISMにより抽出された目的-手段関係

4. AHPによるデザイン評価

AHP: Analytic Hierarchy Process

評価対象

- イノベーション拠点レイアウトデザイン案

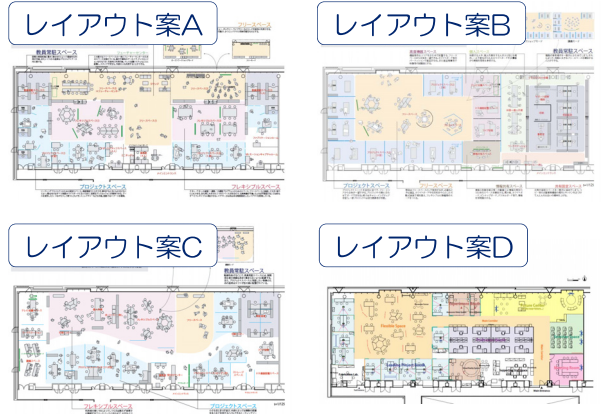


図3：評価したフロアレイアウト

評価手順

1. オフィスでの気づきへの寄与の観点から4基準を相対評価
2. レイアウト案を4基準から相対評価
3. 2種類の評価結果を総合

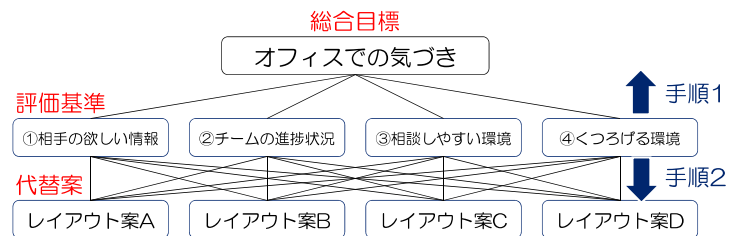


図4：評価システム

評価結果

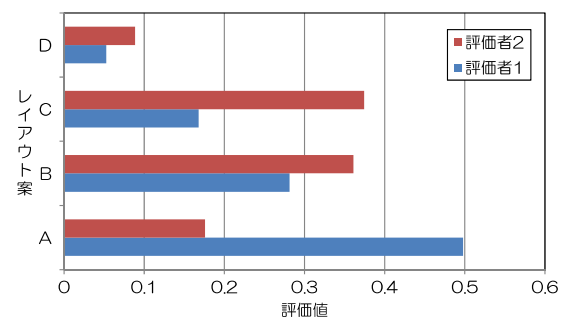


図5：各レイアウト案の総合評価

II. 個人ワーク：各自の専門領域でのISM/AHPの活用実践

- 適正処遇交互作用を加味した学習方針決定のためのAHPによる教授法比較
- ISMを用いた評判形成に関わる因果構造の探索的検討
- 販売管理機器セールスの海外展開における進出国選定のためのAHP利用